

## 脳神経疾患患者の家族の対処資源と認知が睡眠の質に与える影響

【目的】脳神経疾患患者の家族の対処資源と認知が睡眠の質に与える影響を明らかにする。

【方法】家族ストレス対処理論の ABC-X モデルとピッツバーグ睡眠質問票 (PSQI-J) を参考に、脳神経疾患患者家族の睡眠の質の概念枠組みを基盤とする自作の質問紙を作成の上、三次救急を担う大学病院 1 施設の脳神経外科・神経内科で入院し退院される患者の家族を対象にアンケート調査を実施した。分析は、SPSS Ver. 25 にて睡眠の質を PSQI-J 規定の算出方法で計算し、各要因と家族の睡眠の質をクロス集計及び多重ロジスティック回帰分析を行った。倫理的配慮は所属機関の倫理審査委員会の承認を受けた。【結果】対象 143 名のうち 81 名から質問紙を回収した (回収率 56.6%、有効回答率 92.6%)。家族の睡眠の質は良い群が 33 名 (44.1%)、悪い群が 42 名 (55.9%) だった。さらにクロス集計より家族の対処資源・認知と家族の睡眠の質で有意差の出た回答 5 項目を投入とした多重ロジスティック回帰分析の結果は、「他者への相談の有無」 ( $p=0.006$ ) と「心配や不安の内容 (患者の性格の変化)」 ( $p=0.047$ ) が有意に関連していた。【考察】脳神経疾患患者の家族は発症・入院を期に、家族の対処資源の有無と認知の内容が睡眠の質に影響していると示唆された。【結論】脳神経疾患患者の家族の睡眠の質は、42 名 (55.9%) が悪い群に値し、「他者への相談の有無」「心配や不安の内容 (患者の性格の変化)」が影響していた。